



日本住を快適空間!

ダンネット通信

2014.Winter vol.83

発行：株式会社ダンネット 〒070-8045 北海道旭川市忠和5条4丁目9-17 TEL(0166)61-9151・FAX(0166)61-2044

今月のトピックス

補正予算に見る国の住宅関連施策

アベノミクスによる景気回復への期待感と消費増税による景気減速への懸念が交錯する中、政府は去る12月12日に平成25年度補正予算案を閣議決定し、住宅関連ではフラット35の融資率引き上げや給付金による住宅取得の支援のほか、地域材利用、省エネ促進、既存ストックの性能向上に向けた施策を盛り込みました。これらの施策はどんなものなのか、ポイントをまとめてみました。

フラット35の融資率10割に

まず、今年4月の消費増税によって予想される駆け込み需要の反動減対策として、「フラット35（買取型）の融資率引き上げ」と「すまい給付金」の実施が盛り込まれています。

フラット35は住宅金融支援機構が民間金融機関と提携して提供している住宅ローンで、これまで建設費または購入費の9割を上限としていた融資率を10割まで引き上げるにより、自己資金が少ないユーザーでも住宅を取得しやすくなります。ただ、融資率が9割を超える場合は、金利が多少高くなる予定。

すまい給付金は今年夏に政府が発表済みのもので、住宅ローン減税の恩恵を十分受けられない所得者層が4月以降に住宅を取得する場合、最大30万円を給付します。

木材利用Pの工事着手期限延長

地域材利用の促進では、地域材を一定以上使った木造住宅の新築や増改築、木材製品の購入に対

し、特定の商品と交換できるポイントを発行する木材利用ポイント事業を延長。今年3月末までとなっていた工事着手・購入期間が9月30日までとなります。また、省エネ促進に関しては、家庭用燃料電池（エネファーム）や蓄電池、HEMSの購入に補助を行い、エネファームであれば一般の給湯器との差額の2分の1を補助します。

長期優良リフォーム補助も前倒し

このほか、既存ストックの性能向上を目的に、前号のトピックスでも紹介した長期優良化リフォームに対する補助事業を26年度予算に先駆けて開始。リフォーム工事着手前にインスペクション（現況検査）を行うことと、住宅性能表示の劣化対策等級2や新耐震基準などに適合させること

フラット35 融資率引き上げ	住宅金融支援機構と民間金融機関の提携ローン・フラット35（買取型）の融資率上限を9割から10割に引き上げ
すまい給付金	ローン減税の恩恵が少ない中低所得者層の住宅取得に対し、所得に応じて最大30万円を給付
木材利用ポイント延長	ポイント発行対象となる木造住宅の工事着手等や木材製品購入の期限を3月31日から9月30日まで延長
家庭用燃料電池（エネファーム）補助	一定要件を満たすエネファームの設置に対し、一般の給湯器との価格差（購入費・工事費とも）の1/2を補助
リチウムイオン蓄電池補助	リチウムイオン蓄電池の設置に対し、購入費と国の目標とする価格との差額の1/3または2/3を補助
HEMS 補助	空調・給湯などの省エネ制御等が可能なHEMSの設置に対し、設置費用の1/3～2/3を補助
長期優良化リフォーム推進事業	インスペクションを行って、性能表示の劣化対策等級2や新耐震基準などに適合させるリフォームに最大100万円を補助

平成25年度補正予算での住宅関連事業等

を条件に、工事費の3分の1、1戸あたり最大100万円を補助します。

各事業とも一部を除き、1月24日から行われている通常国会で補正予算案が成立した後、正式に詳細発表・事業開始となる予定です。

『DAN壁』のこれまでとこれから

～販売5年目を迎え仕様・生産体制強化へ～

2010年の販売開始以来、美しく、高耐久な湿式外装仕上げと高断熱化を同時に実現できる外断熱外装材として認知されるようになった『DAN壁』。昨年は北海道はもとより、関東・関西・北陸・九州など全国で約250棟に採用されるまで普及し、今年はその倍となる500棟の採用を目指す計画です。販売5年目を迎え、『DAN壁』普及の歩みとこれからの展開について、開発担当者である(株)ダンネツの野村秀二常務・事業推進本部長にお話をうかがいました。

“いいものを納得の価格で提供”

『DAN壁』が産声を上げたのは今からちょうど4年前。ドイツで普及していた湿式外断熱工法を木造住宅にも活かさないかと考えたことが開発のきっかけでした。もっとも、製品化までの道のりは決して簡単ではなく、様々な素材・工法に取り組み、試行錯誤を繰り返すなど、産みの苦しみもあったと言います。それでもハウスメーカー様や工務店様、エンドユーザー様に“いいものを、納得の価格で提供する”という使命感のもと研究・開発を進め、2010年に本格販売に至りました。

当時の様子を野村常務は次のように振り返っています。

「一番最初はRC造を対象とした湿式外断熱工

法に取り組んでいましたが、その後、当社の主要なお取り引き先であるハウスメーカー様・工務店様にもそのメリットを提供できないかと考え、木造住宅に適用可能な湿式外断熱工法の開発に着手しました。様々な断熱パネル製品がある中、下地層まで工場で仕上げた半完成品のEPSパネルとし、現場で簡単に施工できるという独自の付加価値を付けたことが、開発するうえでのポイントの一つでした」。

高耐久なオンリーワンデザインを実現

市販された『DAN壁』は、①断熱材のEPSから仕上げ材のトップコートまですべての材料に透湿性があるため、通気層を省略可能②トップコートの塗膜には柔軟性があり、優れた耐クラック性



“いいものを納得の価格で提供する”という使命感のもと、『DAN壁』を開発したという野村常務



販売開始当初に作られた壁体構成サンプル



高耐久なオンリーワンの外装デザインを実現できることで評価が高まっていった



2010年に札幌で行われた説明会の様子。販売当初から多くの住宅業界関係者の注目を集めた

を發揮③豊富なカラーとコテなどを使った多彩な意匠を表現可能—といった特徴を持ち、付加断熱と同時にオリジナリティある外装仕上げをユーザーに提案できる外断熱外装材として市場に浸透していきました。採用実績も年々増えていきましたが、市場では特に2つの特徴について関心が高かったとのこと。

「高い関心があった特徴の一つは、耐久性が高いオンリーワンの外観デザインを実現できたことでした。外装材の主流である窯業系サイディングの意匠に満足できないハウスメーカー様・工務店様とエンドユーザー様は、潜在的にかなり多いと思いますが、塗り壁など湿式仕上げに目を向けたところで、クラックなどを心配して採用をためらってしまうことが多いのも事実。しかし、『DAN壁』はトップコートの耐久性・耐候性が高く、ヨーロッパで40年にわたる採用実績があります。特にクラックやはがれがほとんどない高耐久な素材を使っているだけあって信頼性が高く、強く美しい塗り壁仕上げを長期的に維持できることが、高い評価につながりました。

もう一つ、通気層なしでも壁体内に入った水蒸気を排出できる断熱材・外装材一体の軽量パネルであることも高評価でした。現場で通気層施工の手間を省略でき、付加断熱・外断熱で気になる外装荷重も心配せずに済むことから、経済産業省のネット・ゼロ・エネルギー・ハウスにも採用され、外壁260mm断熱(うち『DAN壁』155mm)を行った実績もあるほどです」と野村常務は言います。



外壁260mm断熱(うち『DAN壁』155mm)で施工された釧路ゼロ・エネルギー・ハウス

性能・機能や生産供給体制を強化

今年、『DAN壁』の販売開始から5年目という節目の年。昨年の2倍、500棟の採用を目指し、よりハウスメーカー様や工務店様、エンドユーザー様に満足して頂ける製品を提供しようと、仕様改良や営業・開発・生産供給体制の強化にも積極的に取り組む構えで、具体的な計画の一部について、野村常務は次のように語っています。

「製品の仕様・仕様改良については、まず住宅の超高断熱化に対応し、新仕様100mmバージョンを今年早々に追加。2月には札幌で説明会も行います。また『DAN壁』は、万が一、外皮が損傷した場合でも躯体内への雨水等の浸入を防ぐために、パネルジョイント部分などに排水経路を設けていますが、今年はさらに製品の排水機能強化を計画。特に本州では台風やゲリラ豪雨などへの備えも万全にする必要があるため、すでに道総研・林産試験場で様々な検証を行っています。

生産体制についても、旭川第二工場に新しい生産ラインを備えた施設が完成間近で、2月末～3月に稼働する予定です。これにより生産能力は従来の3倍となります」。

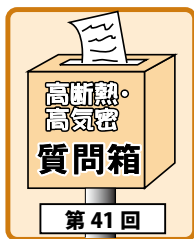
これらの言葉から、“いいものを、納得の価格で提供する”という開発当初の使命感は、今も色褪せていないことがうかがえます。今年、『DAN壁』の魅力が、より磨かれる1年になると言えるでしょう。



幼稚園舎を『DAN壁』でコンバージョンしたニセコ町の国際交流施設。住宅はもちろん公共・民間施設の採用実績も多い



左官職人の技が映える『DAN壁』の生産現場。旭川第二工場で新しい生産ラインが稼働すれば、生産能力は現在の3倍になる



土間下の断熱は全面？ それとも外周部のみ？

Q…冬はかなり冷え込む北関東地域で仕事をしていますが、快適性を高めるため、北海道にならって基礎断熱した

土間下も断熱しようと考えています。その場合、土間下全面を断熱するのと、外周部だけ断熱するのでは、かなり違いがあるのでしょうか？

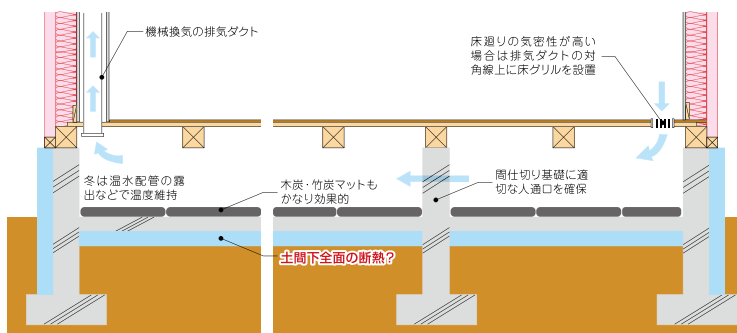
A…北海道の場合、以前は基礎断熱した土間下の断熱は必要ないと言われていました。冬は地盤への

熱損失を減らせるものの、逆に夏は地盤の冷熱を室内のクーリングに活かせず、数年すれば冬の地盤への熱損失も落ち着いてくるからです。しかし、最近ではよりQ値を高めた住宅で基礎回りの熱損失を減らすために、土間下を断熱するケースが増えています。

土間下の断熱は基礎外周部付近だけ行う場合と、土間下全面に行う場合があり、かつては基礎外周部付近だけ行う場合が多かったのですが、ここ数年は全面断熱する現場が目につくようになってきました。全面断熱したほうが、熱損失的に有利であることのほか、基礎断熱した床下空間でまれに起こるカビ臭さも抑えられるからです。

特に基礎断熱で床下に暖房器を設置しない場合は、夏に床下の温度が床上より3～5℃低くなるため、竣工初年度の夏に床下空間がカビっぽくなることもあるようですが、そのようなケースを防ぐには土間下全面断熱のほうが効果的。

最終的にはコストや施工手間も含めて判断してはどうでしょうか。



基礎断熱した床下のカビを防ぐには、土間下を全面断熱したほうがよい

●編集●後●記●

♣あけましておめでとうございます。今年は住宅業界にとって厳しい1年になるとも言われていますが、ダンネツでは引き続き皆様のお役に立つ商材・工事・サービスの提供にまい進する所存です。ぜひご期待下さい。(野村)

♣17年ぶりの消費税率アップを控え、今年は昨年の駆け込み受注の反動が気になるところですが、回りに流されず、しっかり考えて家を建てたいユーザーもいるはず。そういうユーザーに真摯に向き合っていきたいものです。(水越)



株式会社ダンネツ

ホームページURL <http://www.dan-netsu.co.jp/>
E-mailアドレス info@dan-netsu.co.jp

「快適な住まいづくり」はお任せ下さい!

- フローイング工事各種
- 外断熱工事
- 気密工事
- ウレタン吹付工事
- 断熱建材製造販売
- 住宅性能診断

■本 社	〒070-8045 旭川市忠和5条4丁目9-17	TEL(0166)61-9151 FAX(0166)61-2044
■旭川第一工場	〒071-1248 上川郡鷹栖町8線西2号	TEL(0166)87-4442 FAX(0166)87-4888
■旭川第二工場	〒070-0014 旭川市新星町514番地1	TEL(0166)21-7080 FAX(0166)21-7080
■札幌支店	〒003-0869 札幌市白石区川下2127番地4	TEL(011)875-3966 FAX(011)875-3971
■旭川支店	〒070-8045 旭川市忠和5条4丁目9-17	TEL(0166)62-7575 FAX(0166)61-1715
■帯広支店	〒080-2460 帯広市西20条北2丁目27-10	TEL(0155)41-4101 FAX(0155)41-4105
■釧路支店	〒088-0621 釧路郡釧路町桂木5丁目15	TEL(0154)36-1790 FAX(0154)36-1844
■北見支店	〒099-0878 北見市東相内町174番地16	TEL(0157)36-3557 FAX(0157)36-3433
■北関東支店	〒362-0047 埼玉県上尾市今泉1丁目27-4	TEL(048)783-1666 FAX(048)783-1667
■千葉支店	〒263-0003 千葉県千葉市稲毛区小深町116-1	TEL(043)308-5176 FAX(043)308-5178
■宇都宮支店	〒321-0932 栃木県宇都宮市平松本町362-6	TEL(028)636-1266 FAX(028)636-2675
■平塚支店	〒254-0018 神奈川県平塚市東真土4丁目2-69	TEL(0463)54-6484 FAX(0463)54-2430
■水戸支店	〒310-0841 茨城県水戸市酒門町字西割4312-3	TEL(029)248-6761 FAX(029)248-6762
■仙台事務所	〒983-0037 宮城県仙台市宮城野区平成2-18-38	TEL(090)1378-5494 FAX(048)783-1667
■ダンネツ信州	〒399-0034 長野県松本市野溝東1-17-1	TEL(0263)26-0811 FAX(0263)26-1016